

**信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果**

プログラム名	ベトナムFPT大学ビジネス英語及びインターンシッププログラム	
学部・研究科名	国際交流センター（現グローバル教育推進センター）	
実施期間	2015年2月27日～3月21日	
研修先(国・都市・施設名)	ベトナム・ハノイ・FPT大学	
参加学生数 : 14名	知の森基金からの支援者 : 2名	
プログラム概要	<p>信州大学の協定校であり、ベトナム国内IT産業界最大手グループグローバル企業のFPT社が設立したFPT大学と共同実施した英語研修およびインターンシッププログラム。</p> <p>英語ネイティブ講師による英語授業の中で、プレゼンテーションやディスカッション等ビジネス現場において求められるスキルを高めるとともに、インターンシップ（ソフトウェア企業または現地の中学校でのアシスタント）を体験した。また現地学生と寮生活やイベント・クラブ活動を共にすることにより異文化理解や発信力を高めた。</p>	

学生の声-工学部 学生

英語の授業では、プレゼンテーションの作成から発表までの一連の流れを学び、発表の内容も重要な点が最初のプレゼンの入りや自己紹介、次のスライドへの移り方などのプレゼンで使うフレーズをうまく使うことも大変だとわかりました。度胸もつき、徐々に慣れることで余裕も生まれました。

クラブ活動は卓球やベトナムの武道「ボビナム」などに参加し、またイベントで将棋など日本の文化を教えて現地の学生と交流し、彼らの意欲や吸収力を感じました。

インターンシップでは海外での就職活動に役立つ模擬面接やワークショップを体験するとともに、ベトナムの学生の日本進出や今後の企業の関わり方を学ぶことができました。

クロージングセレモニーでディプロマを手にする参加者



IT企業でのインターンシップの様子



実施状況・成果

本プログラムでは、住環境面、衛生面などで日本と差異があるベトナムで数週間生活し、厳しい環境でも生活・勉強していくタフさを身につけることを目指していたが、終了後に多くの学生から「世界のどこでも暮らしていく」といった趣旨の発言を多く耳にすらすことができ、この点で成果が見られた。

また、英語の授業は自由な雰囲気で語り合うタイプで進められたため、英語力に自信がなかった学生も臆せずに会話できるようになり、英語コミュニケーションの楽しさを実感することができた。プログラム終了後も英語学習を継続している参加者が多く存在している。中には、交換留学を視野に努力している者も複数見られる。

なお、学生の声のコメントに見られるように、プレゼンでの効果的な英語使用など具体的な目標を設定しての英語指導も行われたため、自分の具体的な成長が実感できる英語学習だったと言える。

さらに、ブルネイから多くの留学生が同時期に滞在しており、英語が堪能でムスリムであり明るく積極的な彼らとの交流から、参加者たちは自らの思いこみを正し、視野を世界に広げることができていた。昨年度も同様の交流から大きな成果が見られたが、今年度も継続することができた。

インターンシップではベトナムNo.1のIT企業と学校現場という異なる現場を選択することができた。IT企業訪問者からは「企業が社員を大事にしている姿勢、モチベーションを高く持たせる工夫に感銘を受けた」というコメントがあり、学校を訪問した学生からは「ベトナムの子供、学生が日本のことに関心を持ってよく知っているのに対し、自分たちはベトナムに来ていながらベトナムを知らない」ことにショックを受けたというコメントがあった。

以上のように、英語学習、異文化理解、視野の拡大などで大きな成果が見られるプログラムだった。